

## 第129回簿記検定試験 1級 出題の意図・講評

### [商業簿記]

#### (出題の意図)

第129回の1級商業簿記は、決算整理前残高試算表および決算整理事項等にもとづいて、決算整理後残高試算表を作成する設問です。商業簿記の問題は、総合問題の形式が多いのですが、いつも気をつけなければならないのは、総合問題も個別問題の積み重ねである点です。個別問題の会計処理が正確に行われることにより、はじめて総合問題の正解を導くことができるのです。

今回の主な決算整理事項は次のとおりです。

1. 棚卸資産の評価方法として売価還元法を適用し、売上原価を算出する。
2. 売上債権のうち破産更生債権等に対する貸倒引当金の会計処理をする。
3. 当社が起債した社債を償却原価法により会計処理をする。ただし、利息法による。  
なお、每期決算日ごとに分割償還する条件が付されている。
4. その他有価証券に該当する有価証券の評価に関する問題である。部分純資産直入法を適用し、洗替法を適用している。
5. 資産除去債務に関する会計処理をする。
6. 退職給付会計に関する会計処理であり、数理計算上の差異が生じている。

#### (講評)

今回出題されている決算整理事項は、極めて基本的な問題であり、冷静に条件を読み解けば、解答ができない内容のものではないと思います。しかし、予想したほど出来は良くなかったように思われます。商業簿記の総合問題というプレッシャーに負けずに、当該取引に関する基本的な会計処理を着実に判断していく冷静さが求められます。

### [会計学]

#### (出題の意図)

今回は、オーソドックスな問題から新しい問題まで幅広く出題しました。さらに、会計学らしく、短い記述問題もあわせて出題しました。特定の分野に偏っているわけではないので、試験問題としては、解答しやすい部類に属していると思われます。

いずれにしても、基礎を忠実に学習していれば、それほど苦労せずに解答で

きます。

#### 第1問

為替換算に関する問題である。解答に使用する用語が与えられているため、それほど難しいとは思われません。

#### 第2問

新しい分野であるため、少し面食らった方もいるかと思いますが、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」からの出題です。ただ、前期損益修正に関する処理の問題であるため、この基準を勉強していなくとも、7割ぐらいは、できるのではないかと思います。

#### 第3問

繰延税金資産の資産性について、記述させる問題です。如何に与えられたマスの中で説明するかが、ポイントです。

### (講評)

#### 第1問

外貨換算については、商業簿記の計算問題においてもよく出題されているせいか、比較的よくできていました。

#### 第2問

企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」の理解を問う問題です。出題されている1および2ともに、会計上の変更に関する問題です。会計上の変更については、遡及処理しないものと、遡及処理することが必要であるものがあることを、理解していなければなりません。それによって、期首利益剰余金への影響額が異なってきます。この24号は、今回出題したところに限らず、前期損益修正に関しての処理や財務諸表上の表示を変えることになるので、よく理解しておいていただきたいです。

#### 第3問

過去に、負債の定義について出題されているためか、そろそろ資産の定義が出るのではないかとヤマをかけていた受験者が多かったようです。概念フレームワークの資産の定義を覚えてきて、それをそっくりそのまま解答している答案が見られましたが、出題されたのは、繰延税金資産であり、資産の定義そのままでは、資産性を説明できないことに注意しなければなりません。この際、繰延税金資産がなぜ資産として認められているのかを再検討しておいた方が良いでしょう。

## **[工業簿記]**

### **(出題の意図)**

工業簿記は、工程別組別総合原価計算から理論問題と計算問題を出題しました。問1では組製品 X について第1工程の仕掛品勘定の完成を求めています。正常仕損品は再溶解の後、翌月の原料として利用されるため、その評価額が仕掛品勘定貸方に仕損品（原料）として計上されています。このことに気がつけば、各工程の完成品と月末仕掛品への原価配分には平均法を用いているため、比較的容易に解答ができます。これを参考にして、第1工程組製品 Y も同様に仕掛品勘定を作成します。時間の関係で月末仕掛品原価まで計算する必要は必ずしもありません。累加法による工程別組別総合原価計算を採用しているため、完成品総合原価を計算する必要があります。

第2工程では工程の終点で副産物が発生しています。問題文の指示に従って、その評価額を製品 Y の完成品総合原価から控除します。2つの製品を2つの工程を経て製造している工場を想定しているため、問3と問4で問われている第2工程の製品別の完成品総合原価と月末仕掛品原価の計算には多少時間がかかったかもしれません。限られた時間内に解答する能力を身につけるよう日頃から心がけてください。

組別総合原価計算は異種製品を組別に連続生産する生産形態に適用されるのに対し、同一工程において、同種製品を連続生産するが、その製品を形状、大きさ、品位等によって等級に区別する場合には等級別総合原価計算が適用されます。理論問題については『原価計算基準』等を読み、学習してください。

### **(講評)**

基本的な計算問題でしたが、出来がよかったとはいえません。理論問題についても、誤答が目立ちました。基本をしっかりと理解し、計算問題については数多くこなして計算能力を養ってください。

なお、当然のことですが、数字、記号や文字をきちんと書く習慣をつけてください。判読不能な答案がありました。

## **[原価計算]**

### **(出題の意図)**

今回の原価計算のポイントは、初期投資が複数年にわたる投資案を正しく評価できるかどうかという点と、効率の異なる設備を、どのように稼働させるのが最適かを判断したうえでキャッシュ・フローを見積もることができるかどうかという点です。設備投資の問題は、現在価値計算の基準時点に1回にまとめて初期投資を行うという設定の問題が一般的です。現在価値を計算する基準時点よりも

さらに1年後に初期投資の一部と訓練費の支出が生じるという条件を正しく把握する必要があります。おそらく、このような条件の問題に初めて触れたと思いますが、このように今まで見たことのない条件でも適切に処理することができる応用力をつけることが求められます。

(講評)

問1～問3はよくできていましたが、問4以下の出来がよくありませんでした。とくに問7、問8を正解した人は非常に少数でした。初期投資が2年間にわたっているという問題に接したことがなかったために、とまどった受験生が多かったことが原因と思われます。同額の年々のキャッシュ・フローが繰り返されるのは、2013年度から2020年度の8年間ですが、そのとき2012年度はじめの時点を基準に正味現在価値を計算するにはどうすればよいかということに気づく必要がありました。そのためには、機械的に計算プロセスを暗記するだけでなく、年金現価係数をかけるとはどういう意味か、現価係数をかけるとはどういう意味かを日頃からよく考え、理解しておく必要があります。